



特集

# 子どもの「食」を支えよう 広がるフードバンクの輪



子どもの7人に1人は貧困。これは、国が調査した日本の子どもの貧困率です。我が国の貧困率は年々、上昇傾向にあり、先進国の中でも上位となっています。こうした中、子どもの貧困を「食」を通して支援する「フードバンク」という取り組みが始まっています。今号の特集では、「フードバンク」に関わる方の話から、私たちにできる支援について考えます。

問合せ ことも未来政策課 (851・2325)  
HP 71037

## 子どもの貧困は他人事ではない

貧困に苦しむ家庭の問題は、食費などが家計を圧迫するだけではありません。

市が実施した調査では、塾や習い事の経験ができないことや、家庭への負担を考えて子どもが進学を選択しないなどの理由により、将来の夢を持つことができない傾向にあることが分かりました。こういった子どもが増えていくことは、各家庭だけの問題ではなく将来的な社会問題と考えられており、未来を担う子どもたちが豊かな生活を送れるように支援していくことが求められています。

このような貧困に苦しむ家庭を支援するため、各種手当があるほか、学校や地域、市などが連携して家庭を支え、孤立を防ぐための対策を行っています。

貧困の問題を保護者の責任として捉えるのではなく、子どもを第一に考え、私たちにできる支援に取り組む必要があります。その取り組みの一つとして、「食」を通じた子どもへの支援の輪が広がっています。



こども未来政策課  
鈴木 誠也



### 子どもの貧困が広がっている

国が平成27年に調査した子どもの貧困率は、13・9%。子どもの7人に1人が貧困であることが分かりました。また、子どものいる世帯のうち、大人が1人の世帯の貧困率は、50・8%にも上り、ひとり親世帯などの多くが貧困状態にあることも分かりました。

### 食費が大きな負担

調査会社が平成29年に、ひとり親世帯を対象に行った調査によると、過去1年間に経済的な理由で家族が必要とする食料などが買えないことがあったかという質問に対し、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」と答えた世帯は34・9%という結果が出ています。

### 広がるフードバンク

こうした中、食品製造業者や小売業者などが食品を寄付し、貧困家庭や児童福祉施設などに届ける「フードバンク」と呼ばれる取り組みが始まりました。この取り組みは、全国に広がると共に、最近では個人が寄付する動きも活発になっています。

## フードバンクとは

フードバンクは言葉のとおり「食べ物銀行」です。お金の代わりに食べ物を貯めておき、必要とする人が受け取ることができる仕組みです。

食費を負担と感じる家庭がある一方で、食品製造業者などは、賞味期限内で、まだ安全に食べることができても関わらず、ちょっとした型崩れや外装の印字ミスなどにより売れなくなってしまった食品を抱えています。また、家庭でも食べきれない食品を余らせることがあります。フードバンクにはこうした食品が集まり、支援を必要とする子育て世帯に配布されると共に、児童養護施設などにも提供されます。

フードバンクは、子どもの貧困を支援するだけでなく、企業や家庭で発生する食品の廃棄を減らすことにもつながっています。

## 市の取り組み

平成30年度から豊橋市社会福祉協議会と協力し、フードバンクの取り組みが始まりました。この2年間で缶詰やレトルト食品、米など1万点以上の寄付があり、多くの方へ届けています。

## フードバンクへ寄付をしました!



自宅などに残っている食品を確認してみよう!

そうめんを3箱も貰ったけど、食べきれないなあ…。



寄付ありがとうございます。賞味期限も2か月以上ありますね!



ぜひ、困っている方に渡してください。

集まった食品や調味料などを仕分けて準備します。



ありがとうございます。助かります!



### NPO法人東三河フードバンク

これまでのフードバンクの取り組みは、臨時の支援策として年2〜3回程度行われるものでしたが、食品を必要とする方を継続して支援するため、1年を通じて活動を行う「NPO法人東三河フードバンク」が6月に設立されました。これからは、市や豊橋市社会福祉協議会と連携した活動を行います。

### いつでも支援ができる体制を目指して

一般家庭や企業などからの食品の寄付をいつでも受け付ける体制を整え、支援が必要な方や施設などに、定期的に食品を配布していきたいです。このNPO法人では、食品をフードバンクまで取りに来ることができない方への配達サービスなど、より便利な仕組みを作り、支援の輪を東三河全域に広げることを目指しています。また、食品を寄付してくれた方の「もったいない」を、食品を受け取った方の「ありがとう」に変える橋渡しをして、多くの方が笑顔になれるよう努力していきます。



NPO法人東三河フードバンク  
理事長 佐藤 多一さん

# お母さんの 喜びの声

今後もさらに支援の輪が  
広がることを願って

15歳で長男を出産し、2年前に離婚した田中さん。現在は祖父と同居し、8歳と2歳の子どもを育てています。

新型コロナウイルス感染症の影響で小学校が休校になり、給食がないことで月々の食費が増えたと4・5月を振り返ります。そんな中、市からの案内が届き、フードバンクの存在と、自分が食品などを受け取れる対象であることを知りました。

フードバンクで受け取ったのは、米2kgと玉ネギ、ニンジン、ブロッコリーなどの野菜や菓子の詰め合わせ。その量の多さに驚いたと言います。「賞味期限も1・2か月の余裕があつて、ちょうど食べ切れる量でした。お米や野菜が本当に嬉しくて、とても助かりました。」



田中さん(仮名)  
2児の母。パート勤務

笑顔で感謝の気持ちを話してくれました。



田中さんは、日々、成長する子どもの姿を見守りながら、不安を感じることもあると言います。「子どもが成長するにつれ、食べる量は増えています。中学生、高校生になったら、さらに食費がかかると思うと不安になります。」と話す田中さん。同じように困っている多くの人がフードバンクを使えるよう、支援の輪が広がって欲しいと願います。「フードバンクでは支援者の皆さんに会うことはできませんが、温かい気持ちは私たちに伝わっています。」と

## フードバンク運営資金の寄付にご協力ください！

NPO 法人東三河フードバンクで食品の管理や食品の配達などに必要となる運営資金の寄付にご協力ください。7月1日(水)から9月30日(水)に、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」から申し込みできます。

問合せ こども未来政策課 (☎ 51・2325)

HP 76100

皆さんの寄付が、子どもたちの  
手助けになります！



こども未来政策課  
森本 啓吾

# こども食堂 の喜びの声

## ひまわりのような 子どもたちの笑顔を守る

「キラキラ輝く、ひまわりのような子どもたちの笑顔が何より大事なんです。」こう話すのは、明照保育園の中島園長。3年前に、こども食堂「おとなりさん」を開設しました。

「利用者の中には、さまざまな事情で食事に困っている家庭や、夕食を一人でとらざるを得ない子どももいます。」と中島園長は言います。こうした支援の必要な子どもの情報は、市や学校から連絡を受けることもあり、子どもは無料で食事を受けることができます。また、ここには、子どもと2人だけの食卓は寂しいとやって来る家族もいます。「1人で食べるより、大勢で食べた方が楽しく、おいしく食べることができま



社会福祉法人 明照保育園  
園長 中島 章裕さん

こども食堂「おとなりさん」を取材したこの日、メニューに使われた米は、フードバンクで受け取った物。お代わりは自由になっていて、子どもたちは2杯目、3杯目と競うようにお代わりします。「フードバンクから食品を提供してもらえるおかげで、子どもたちに充実した食事を提供できます。ここで食事をした子どもの中には『久しぶりにお腹いっぱい食べた。』と話す子もいて、食を通じて子どもを支えることができていると感じています。」と話す中島園長。笑顔で食事をしている子どもたちを嬉しそうに見つめていました。



## フードバンクの食品を募集します

家庭にある食品を集め、食事の支援をしている団体や個人へ提供します。

**対象** 賞味期限までに、おおむね2か月以上ある保存食品（缶詰など）、調味料、お菓子など

**その他** 支援対象者へ配布する際に使用する紙袋なども寄付可。寄付できる物など詳細はホームページ参照

**申込み** 8/4(火)～9/4(金)に直接、職員会館、こども未来政策課、各窓口センター、各地区市民館、各地域福祉センター

**問合せ** こども未来政策課 (☎ 51・2325)

HP 77106



# 児童養護施設 の喜びの声

## 地域の支えが 子どもたちの笑顔を作る

豊橋平安寮には、虐待や経済的理由で家庭で養育できない2〜18歳の子どもが入所しています。栄養士として約60人の子どもの献立を考える西さん。幼児から高校生までの幅広い年齢層に合わせ、栄養バランスや成長に必要な量などを考えると共に、家庭の味を感じてもらえるようにこだわっています。「給食とは違う、家で食べるような食事を目指しています。」



社会福祉法人 豊橋平安寮  
栄養士 西 千明さん

献立を考える際、気にしなければならぬのが食費。約60人分ともなると年間1700万円もの食費がかかってしまうと云います。以前から地域の農家に採れたての野菜や果物を提供してもらっていましたが、さらに昨年度からフードバンクからも米や缶詰、業務用のサラダドレッシングなどを貰うようになったことで、食事のバリエーションが増え、おかずを1品増やすこともできるようになったそうです。「フードバンクや地域の農家の方、そのほかにも、食品を提供してくれる方がいて、地域が子どもたちを支えてくれてます。」感謝の気持ちを忘れないよう、寄付された食品の経緯を子どもたちに説明している西さん。「皆さんが思う、少しのお菓子や大根一本などのお裾分けが私たちにとっては大きな助けになります。」

家や職場などに食べずに残っている食品はありませんか？

その食品で子どもたちや困っている方を支援することができます。

一人ひとりでは「ほんの少し」でも、多くの方の支援が積み重なると、大きな支えになります。

継続的な活動が求められるフードバンク。

子どもたちの支援について、改めて考えてみてはいかがでしょうか。